

ゼミ活動における自主映画の制作

伊藤翼*1・井上華穂*1・岡田麻友子*1・佐原享奈*1・下岡彩香*1・三浦彩夏*1・森花梨*1・福島千夏*1・
東有沙*1・宮嶋里英*1・中田平*1
Email: m1052013@ckinjo-u.ac.jp

*1: 金城学院大学現代学部情報文化学科

◎Key Words 映画製作, ゼミ活動, 就職活動

1. 目的

金城学院大学現代文化学部情報文化学科は、卒業論文または卒業制作を必修単位として課している。内容はコンピュータのソフトウェアを中心とした情報科学的な内容から経営学・社会学・文化学から広告マーケティングまで幅広い内容を扱っている。私たち中田ゼミの10名は3年次から自主映画制作に取り組み、台本作成から撮影・編集まですべてゼミ学生を中心に短編映画を完成させることを目指してきた。今回、3年後期から始めた映画制作の目的は「ゼミ生全員で納得できる作品を作る」ことを重点に置いた。

昨年映画を制作した際、ゼミ生全員での話し合いと取り組みが不十分であったため、台本を始めカメラの使い方のノウハウがゼミ生全員に行き渡らず、チームプレイが重要とされる作業であるにもかかわらず協力してできないことが多かった。また完成した作品を見ても、演技力やカメラワーク等の技術力も欠けており、とても納得のいく作品とはならなかった。そこで、前回の反省として各々の課題を見つけ、一人一人に映画制作の一員としての自覚を持たせ、さらに目的意識を高めさせた。

今回の作品では話し合いの段階から十分に時間を取ることにした。また、それぞれがカメラや照明や音声などすべての作業に携わることで、様々な場面での役割と機材の使用方法を学び、他人任せになることがないように徹した。またセリフに関しては役柄を十分に理解し、言い回しに注意しながら修正を繰り返して作り上げた。そして完成した台本を何度も読み込み、感情の込め方や表情やしぐさなど全員が納得のいく演技を心がけて撮影に挑んだ。

こうして一つ一つ徹底して行うことによって、チームプレイができるようになり、連絡事項等の共有や、準備や作業がスムーズに行うことができた。

2. 脚本制作について

2.1 テーマ

最初に10人で出演することを条件とし、それぞれがどのようなテーマの映像を制作したいのか考え、それを発表し合った。その意見の中から自分達に見合ったテーマを厳選した結果、私たちの大学が旧校舎を壊し、新校舎に建てなおすため、旧校舎に込められた思い出を映像として残したい。そのために学校を舞台にしよ

うと決めた。「金城学院大学に7つの不思議があり、その不思議を解明していく中で、自分達が人間として成長していく」というテーマに決定し、考え方としては、「金城学院」らしさを出すために、他大学には無いような場所を設定し、出し合った案で固めた。また、それ以外は映像にメリハリをつけるためにコメディ要素を入れ、視聴者が飽きを感じないように工夫をした。それが「未来への遺言」という台本に結実した。

2.2 登場人物

次は登場人物についてである。これも七不思議と同様に考えていった。登場人物は全員、個性を強くしていこうと最初に決めていたため、多様な性格を30~40個各自でリサーチし、案を持ち寄った。そこから同じような案を添削し、最終的に出演人数である10個の性格にまとめた。これを現実の自分達に一番近い性格を当てはめることで、素人でも自然な演技が出来ると考え、性格を割り振った。ただ、自分達の成長の物語であることから、敢えて性格が真逆である登場人物を2人や3人で組ませ、そのグループで脚本を進めていった。これにより、台本自体に愛着を持たせ、イメージを自分達で作り、把握することで自然な演技をすることができ、撮影自体もスムーズに進むだろうという目論見もあった。

2.3 共同作業の進め方

脚本は大学で導入している Education プログラムの Google ドライブで共有し、それぞれが空いている時間にすぐ書き込めるようにバージョン管理を行った。また話し合いの場として、台本や絵コンテや写真など、ファイルを共有してバージョン管理をする場合には Facebook のグループ機能を用いた。特に、緊急の連絡には LINE のグループ機能が有効であった。こうした作業を続け、2012年10月から始めた脚本制作は2013年1月に完成することができた。3年前期にショートフィルムを制作した際、脚本制作が短時間であったことが反省点として挙がったため、今回は時間をかけて制作した。このように前回の反省を活かした結果、より良い脚本制作ができたと考える。

3. 撮影

3.1 絵コンテ・香盤・スクリプト・プロップス

撮影には台本はもちろん、カット割りを決めるための絵コンテと香盤、スクリプト及びスケジュールの管理が

